

エルムグループの季刊誌

にれのき

2013
Spring

<http://elm-ac.jp/>

2013年のエルムグループ 30周年に向けて新たなステージに立つ

特集：進路教育について考える

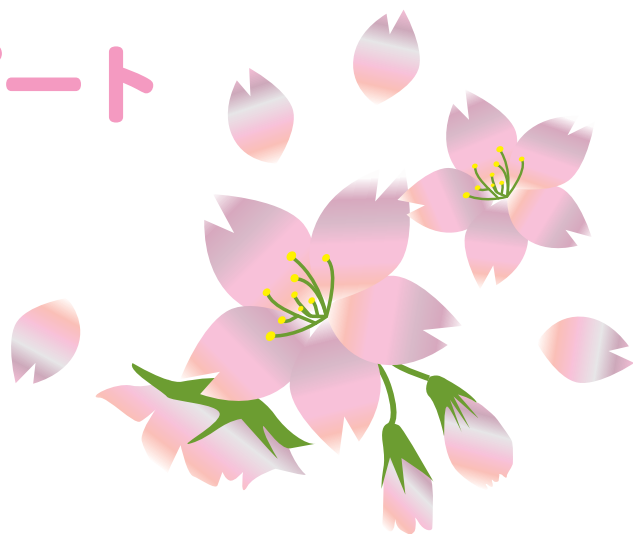
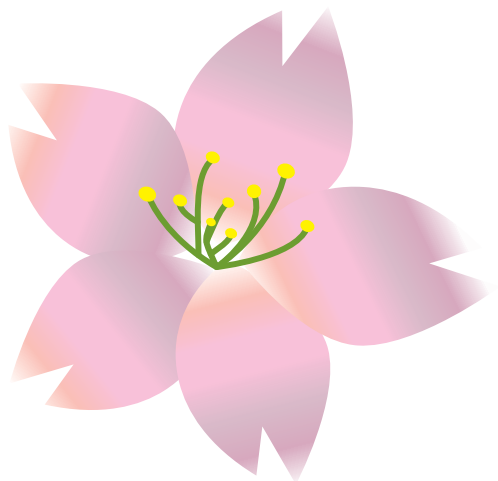
2013年新春シンポジウムレポート

「イキイキと生きるための進路教育」

エルムアカデミーの考える「進路」とは

中学3年生「進路発表会」の取り組みから

親子もちつきレポート



30周年に向けて新たなステージに立つ

孤独に、そして孤立させない

地域社会をつくりあげる

エルムグループ代表 矢沢 宏之



「地域に生まれ、地域にそだち、地域にいき、地域をつくる」というスローガンをエルム創立20周年の2004年に掲げて、今年で10年目になりました。みなさまがたのご協力で、スローガンの「つくる」を実現するステージにやと立つことができたと思っております。

それは、私たちの4つの事業がそれぞれにつながり、有機的に発展しているからです。そして、そこからさらにネットワークが伸びて、線から面へ大きく成長していることを実感しているからです。

各事業で大きな成果

この数年間だけでも、大きな成果を生み出しています。

◆2004年にESS事業部を立ち上げ、WEB制作などIT事業や請負事業を進めながら、若者の職業訓練をすすめ、7名の若者を仕事に就かせることができました。

◆2005年に、発達障害の子どもたちの教育支援を目的としたNPO法人「教育サポートセンターNIRE」を立ちあげました。これにより、塾の枠組をこえ、学校や行政との連携が大きく進みました。

◆2007年12月に「麵処はるにれ」を開店させることができました。エルムアカデミーの卒業生を受け入れ、地域で育った若者の仕事を通じての成長と雇用を創出することができました。

◆2009年からエルムアカデミーは自由の森学園での合宿が定着していま

す。学習環境が向上したことで、授業が以前に比べて格段にやりやすくなったこと。また、多目的室やグラウンドを利用できることで行事の面でも質的向上がはかれました。

同時に、父母の会が中心となって自由の森学園父母とコラボし、学習会企画を4年にわたって取り組み続けてきました。2013年1月に開催された、自由の森学園、北星余市高校、大東学園高校との合同シンポジウムでは100名にのぼる方々が集まり、「進路教育」について熱く議論をたたかわせました。

また、北星学園余市高校との交流も盛んになり、職員研修の一環としてお互いの職員の交流も進んでいます。

◆2010年に「しながわ若者サポートネット」をたちあげ、ひきこもりをはじめとして困難を抱える地域の若者の支援をスタート。のべ78人にのぼる若者や家族を支援。就労や就学に結びつけた成果を生みだしました。特に、中小企業家同友会会員企業の結びつきでの就労も多くありました。

また、若者の就労体験の一環として「麺処はるにれ」の商品「冷凍汁なし担担麺」製造の一部を担い、ネット販売はじめとして通信販売として全国的に販売ができるようになりました。

30周年をどのようにむかえるか

このように私達が「地域」というスローガンを掲げて10年、多くの成果を生み出してきました。いよいよ、来年が30周年の節目の年になります。このような成果を受けて、30周年記念出版プロジェクトが動き出しています。多くの方々から「エルムの実践を本にして出しなさい」と叱咤激励を受けて参りましたが、いよいよ形になったものを世に問うことができます。

今になって、振り返って見ると、10周年の際には「学校」を、20周年の際

には「地域」を、意識しての取り組みを進めてきました。エルムは教育を柱の基本としながらも、その教育という狭い枠組みにとらわれないで、「子ども・若者の成長を支えるために何ができるのか」を問い続け、エルムグループとして事業活動の幅を広げてきました。

さらに「地域をつくる」というステージに立ち、その役割を問い返してみると、「孤独に、そして孤立させない地域社会をつくりあげる」ことになると思います。そして、エルムグループでの狭い枠組みのなかだけで問題を解

エルム30周年記念プロジェクトについて

2014年1月4日に創立30周年を迎えます。

これに向けていくつかのプロジェクトを立ち上げていきます。
みなさまのご協力をお願いいたします。

◇出版プロジェクト

機フジイ企画さまのご協力で企画を進行しています。
現在、エルムのスタッフなど内からの取材を主に進めています。エルムを多角的に切り取るためにも、エルムの外からの目が必要になります。父母の目線から、OBの

目線から、地域の目線から、「エルムがどう映るのか」を教えてくださいと助かります。また、こんなエピソードがあったということでも結構です。ぜひ以下に情報をお寄せください。

◇記念行事プロジェクト

2014年4月以降に開催を予定をしております。
「エルム父母の会」「エルムを応援する会」などとも協力して開催をいたします。

エルムグループとは

決するのではなく、地域で問題解決を果たしていくこと。そのコーディネーターの役割を担い、その先頭に立つことがエルムグループの役割になってくるだろうと思っています。大きな理想を抱きながら30周年を迎えていきたいと思っています。

有限会社エルムアカデミーは1984年学習塾として創立。2004年にウェブ制作や請負をおこなうESS事業部を、2007年には「麺処はるにれ」を戸越公園駅前設立。法人として3事業部体制となっています。

また、別法人としてNPO法人教育サポートセンターNIREを2005年に設立しました。
3事業部とNIREの4つを「エルムグループ」として総合的に経営しています。

elm academy
「学び」も「育ち」も全力で応援します!

麺処はるにれ
透き通った繊細な味のスープの塩ラーメン!

Elm Service Supply

教育サポートセンターNIRE
LD、ADHD、高機能自閉症などの教育相談、個別指導

イキイキと

生きるための進路教育

親の常識は通用しない



2013年1月20日、品川区立中小企業センターでシンポジウム「イキイキと生きるための進路教育」親の常識は通用しない」が開かれました。

コーディネーターは児美川孝一郎氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）、パネリストは田中亨氏（北星学園余市高等学校教頭）、鬼沢真之氏（自由の森学園高等学校校長）、遠藤裕子氏（大東学園カウンセラー）、矢沢宏之（エルムアカデミー代表）です。全国で特色のある教育をしている学校と塾が集まり、100名に近い参加者が集まりました。

今回はこのシンポジウムの概要をレポートいたします。

（レポート：齊藤大輔）

コーディネーター & パネリスト 紹介



コーディネーター
児美川孝一郎
(法政大学キャリアデザイン学部教授)



パネリスト
矢沢宏之
(エルムアカデミー代表)



パネリスト
田中亨
(北星学園余市高等学校教頭)



パネリスト
鬼沢真之
(自由の森学園高等学校校長)



パネリスト
遠藤裕子
(大東学園高等学校カウンセラー)

それぞれの自己紹介に納得

田中さん（北星余市）は、生徒は元不登校が6割、非行が3割とのこと。「つくりあげる高校生活」をキャッチコピーに、生徒が社会に出た時のことを考えて、いろいろな経験をさせる機会を多く設けるように取り組んでいきます。すべての生徒に接しようとすると時間が足りないことと、卒業した生徒がしばしば入学以前の荒れた状況に戻ってしまうことが悩みだと語りました。

鬼沢さん（自由の森）は、競争は害悪と考え、テストのためでない勉強を教えているとのこと。教員が手作りで授業の資料をつくっていると言います。習熟度別の授業ではないので、授業を作るのが大変だそうです。「学ぶことの楽しさ・意味を伝える」がキャッチコピーでした。

遠藤さん（大東学園）は、どんな人にも教育を受ける権利があるという精神の下で活動していると発言。「ひとりひとりの生徒の面倒をしっかりとみる」をキャッチコピーに、多くの出番を用意し、生徒の自己肯定感を高めるのに力を注いでいると言います。保護者の要請でできた相談室があり、教室に行けない生徒でも、相談室登校で進

級することもできます。問題点はやはり生徒が多いので時間が足りないということでした。

矢沢（エルム）は、地域で30年近く塾を続けてきて、社会状況の変化に合わせて若者支援の事業もはじめたと紹介。キャッチコピーは「子どもの成長・発達を長いスパンで地域で支えていく」です。親からのニーズを踏まえて、地域のネットワークで支えるようにしていると報告しました。

どこも子どものことを第一に考え、ひとりひとりと向きあおうとしている点で共通しています。同時に、それぞれの学校や塾で力点の置き方に違いがあることも大変興味深いものでした。

進路教育の取り組みと卒業生

北星余市では、大学に進む人はほとんどが推薦で、進路指導は3年生まで行っていないとのこと。今後どうすべきかはいま議論しているところです。

自由の森学園では、学年を追って進路や社会に対するイメージ・知識をつけていくようにしていると言います。卒業後は、芸術や教育分野に行く人が多いそうです。鬼沢さんは、林業を勉強して農大に行き、現在東北の復興事業に関わっている卒業生を紹介しました。

大東学園では1年生から職場体験や専門家の話を聞くプログラムがあり、労働法や権利の授業も並行しておこなっているとのこと。遠藤さんは、中学時代に母親を亡くした生徒について語りました。なかなかしゃべらず、教室にも入れず、相談室に通っていました。卒業のとき、はじめて母のことを総括する作文を書くことができ、三鷹にある居場所にもつながり、今は明るくなったという話が出されました。

エルムでは、どう生きるかという広い意味の進路と、高校・大学など具体的な進路を合わせて考えていること。そして、いろいろな活動（合宿など）を通して自分がどんな人間になりたいか考えさせていることが述べられました。小中高とエルムで学び、大学でもエルムでアルバイトをし、エルム教員になっている卒業生が紹介され、本人も登場し進路選択の話をしました。

まためにコーディネーターの児美川さんから、「高校を卒業した94人の内、就業継続しているのは44人しかないのが若者の現状。がんばれば正社員になれるという社会の構造ではなくなくなっている。進路を切りひらくためには、学びの習慣と自分で人生を引き受けていく精神が必要であり、2つを通して変化への対応力・落ちこんでも起きあ

がる力をつけることが重要」とのコメントがありました。

グループ討論も活発に

続いて14のグループのわかれてグループディスカッション。保護者からは、自分の子どもが抱えている問題について語られました。今回のシンポジウムが、その悩みに応える一助になったと思いたいところです。最後に、自由の森学園の生徒によるダンスパフォーマンスとテーブルマジックが披露されました。

盛りだくさんの会でしたが、参加者はそれぞれに得るものが多かったと思います。社会状況の困難にときには傷つきながらもがんばっていく若者たちを支え、成長させていく学校や塾がもっと増えていけばいいのにと痛感した集まりでした。

お知らせ

今回のシンポジウムの内容は加筆・修正を加え、冊子として発行いたします。

現在、編集作業中です。発行は5月を予定しております。



仲間とのかかわりの中でこそ 『なりたい自分』は見えてくる 〜中学3年生進路発表会の取り組み〜

広い意味で進路を考えていく

人生は、中学を卒業して終わりではありません。むしろ、そこからがスタートです。だからこそ、高校入学をゴールと考えた「進路指導」をエルムではしていません。

「どんな自分になっていきたいか」

「どんなふう生きていくか」

「進路」選びは、単に高校を決めることではありません。「今までの自分」を見つめ直し、「これからの自分」、この時代や社会の中でどんな自分として生きていきたいかを探すことです。高校は一つの選択肢に過ぎません。だから、エルムではこれからの自分の未来について納得のいくまで考えていくことを、子どもたちに迫っていきます。進路とは、そこで見えてきた「理想の自分」や「なりたい自分」に向かって突き「進」んでいく『路』を表していると考えています。

仲間の中で自分を知る

「なりたい自分って何だろう」「どんなふう生きていきたいのか」という問いに答えを出すためには、自分についてしっかり考えることが大事です。

ところが思春期の子どもたちにとって、自分自信のことは非常に見えにくいものです。その自分を見るためには、仲間とつながることがです。人と人との間でしか「自分らしさ」は発見することはできません。安心できる仲間との関わりの中でこそ、自分自身の弱さや強さも含めて「自分」という存在がはっきり見えてきます。「自分」を知るために何より必要なもの、それは本音をぶつけ合える、温かくも厳しい仲間たちの存在です。だからエルムでは、仲間とつながり、自分を見つめる取り組みとして、「夏合宿」があります。あらゆる側面から自分自身を考えさせる合宿は、子どもたちにとって、ある意味過酷です。ただ、それがあからこそ「なりたい自分」

も見えてきます。

お互いを知り、高めあう、進路発表会

進路の志望が決まる12月、中3はクラスごとに進路発表会を行います。進路を個人だけのものにするのではなく、一緒に歩んできた仲間にも伝える。そうすることで、自分の進路への決意を確かなものにする。そして仲間の進路と一緒に最後まで応援しあうことを確認します。子どもたちは緊張しながらも真剣な面持ちで自分の進路を語ります。仲間の決意を真剣に聞き取り、終わるとみんなで大きな拍手。終始温かい雰囲気になります。

「えー、すごい、そんなことを考えていたんだ」と、あっと驚くような決意を発表する子もいて盛り上がりがあります。

決意を聞き終わった最後には、

「よしっ、頑張ろうぜ」「やってやる」

次の日から始まる冬期講習への大きなモチベーションになっていきます。



このように発表できるのは、なりたい自分を追い求めてきたからです。「何のために高校に行くのか」「なぜ勉強するのか」という問いに悩みながらも答えを出せたからに他なりません。だからこそ子どもたちは、「どんな自分になりたいのか」を仲間の前で胸を張って言えるのです。本当の生き方を考えるために「受験」、そして「進路」があると、改めて思いました。

最後まで、そしてこれからも「みんな」

1月になると受験が始まり、進路が決まり出します。「クラスの最後の一人が決まるまで共に頑張り続けるんだ」ということを、日々訴えています。

受験が終わっても、子どもたちの人生は終わりではありません。もっと大きな壁が待っているかもしれない。共に泣き、笑った仲間、一緒に歯を食いしばって踏ん張り、進路を切り拓いた仲間。エールでできた仲間関係はずっとつながり続けていきます。これからの長い人生の中でも、仲間と共に手をつなぎ、お互いの進路を共有しあい、助け合いながら歩んでいってほしいと願っています。



中3進路の作文より

私は中学校生活を送っていない。学校に行かず勉強もろくにしないで三年生になった。さすがに自分でもこのまま何もしないでは大変だと思い、学校で勧められた塾に行った。そこから私の生活は激変した。

最初は勉強もわからないことが多く、そのことが恥ずかしくなって嫌だった。けど、そんなこと気にしないで自分のやることをやればいいと思える場所だった。口で説明するのは難しいけど私を変えてくれたところ。

自分で変わったと思えた一番のできごとは夏に塾のクラスに入り、合宿に行き、七泊八日の間中学生から高校生までの人と過ごしたこと。そこで私が学んだことは、仲間や人と人の関わり合いの大切さ、誰かと何かをやり遂げる達成感、他にもいろいろと学んだいい体験。

そして人と関わって初めて分かったことは、周りを見渡すと、年下や年上に関係なく憧れるような素敵なお人を持っている人がいっぱいいるってこと。

高校生活では、そんな人たちの素敵なお人にならないうちに近づけるよう、自分の学んできたことを活かしながら努力し、自分を磨いて素敵だなんて思われるような人を目指し、成長したい。そのために勉強や人と向き合うことに力を入れ積み重ねる。なぜなら、勉強や人と向き合うことは自分の世界を広げられるから。

他の人を見てると自分がどんな人になりたいかわかる。全てを目指すのは無理だし、なりたいからって簡単になれるわけじゃないけど、それを目指す努力の人になりたい。自分自身でなまけてるところがあるってわかってるから、それをなくして、自分は精一杯やっただけでいい受験にしたいと思ってる。

みんなも精一杯やっただけでいいと思うし、みんながクラス目標を達成しながら卒業できるようにしたいです。

一体となって地域を盛り上げる

2012年12月16日午前11時。前日までの雨が上がり、雲ひとつない空が広がる日曜日となりました。荏原町駅から伸びる商店街と交わる立会川緑道公園にて、年末恒例のエルムの親子もちつきが開催されました。

NIREの子どもたちは揃いのサンタ帽をかぶり、串にさしたこんにゃくの販売です。5個の玉が1本の串にささって2本で150円。ニンジン・青のり・ごまといういろいろな味を楽しめました。お好みで辛子があるとなおよかったかもしれません。

黒地に黄色い文字で「からあげスター」と染め抜かれた三角巾を巻いているのはエルムの小学生たちです。赤ん坊の握りこぶしほどもあるうかという大きさのからあげが、3個入って1カップ150円。弁当屋からプロの技を学んだというだけあって、外はパリッと中はジューシーな出来映えです。整理券を配るほどの盛況ぶりでした。

エルムの中学生はフリーマーケットを出していました。古本・古着・小物などが置かれ、多くの人が足を止めていました。

その横では父母の会のバザーが開かれていました。小さな天使の像をあしらった、クリスマスらしいデザインのオーナメントが目をはきます。

今年は、しながわ若者サポートネットがはじめて出店しました。麵処はるにれの冷凍ギョウザを、いくつもまとめて買っていく人が多かったそうです。

一番奥ではもちつきが行われていました。湯気のたちのぼる真っ白なもちを、教員や保護者、子どもたちが交代でついていきます。12時近くなって、できあがったもちとシャケ汁がふるまわれると、長い列ができました。大根おろしをのせたピリ辛のもちもさることながら、魚のダシが出たシャケ汁がよい味で、体を暖めてくれました。

調理と盛りつけをする子どもたちの真剣な顔、声を張りあげ積極的に呼びこみをする姿。それを見守る大人たち。子どもと保護者、教職員、OBが一体となって親睦を深めあい、地域を盛りあげようとする光景がそこがありました。

(レポート：齊藤大輔)



① 大きなフライヤーを使ってからあげをカラッと二度揚げ。

② 揚げたて、アツアツが売りの小学部からあげは大盛況でした。

③ NIREの子どもたちも元気にこんにゃくを販売しました。

④ しながわ若者サポートネットも初出店しました。一生懸命販売をしていました。

⑤ エルムを応援する会の方々も集まりました。写真は萩原夫妻のもちつき。

⑥ つきたてのもちをきな粉、大根おろし、のりで仕立てます。